



2007年2月28日
MR/E07/07

UNITED NATIONS
UNIVERSITY

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: http://www.unu.edu/

国連大学高等研究所といしかわ国際協力研究機構、 日本における里山・里海のサブ・グローバル評価を 3月8日に開始

内容： 日本における里山・里海のサブ・グローバル評価に係るユーザー・ミーティング
日時： 2007年3月8日(木) 10:00~17:00
場所： パシフィコ横浜6階 国連大学高等研究所 (UNU-IAS)
主催： 国連大学高等研究所 (UNU-IAS)、いしかわ国際協力研究機構 (IICRC)

背景

- 日本は国土の約4割が里山と言われている。しかし、様々な要因（農村から都市への人口流出の増加、土地利用の変化、伝統的農耕の放棄など）が組み合わさって、広範囲にわたる里山の劣化と減少を招いている。
- 2006年後半から、国連大学高等研究所と、その特別プログラムであるいしかわ国際協力研究機構は、日本における里山・里海のサブ・グローバル評価 (SGA) の開始に向け、準備を進めてきた。
- このイニシアティブは、ミレニアム生態系評価 (MA) で用いられたサブ・グローバル評価の枠組みを適用して、日本の里山や里海が提供する生態系サービスを明らかにし、その持続可能な管理方法を提案しようというものである。政策決定に関連する課題と利用者のニーズをもとに、生態系が人間の福利にもたらすサービスに焦点を当てた評価を行う。
- この里山と里海に関する SGA は、日本で行われる初めての SGA となる。これは現在世界各地で行われている MA のサブ・グローバル評価に反映されると同時に、日本の国家および地域の戦略をより効果的なものにするために役立てられることが期待される。
- もうひとつの大きな目標は、日本政府が開催地として立候補している 2010 年の生物多様性条約第 10 回締結国会議 (CBD COP-10) にインプットを与えることである。

イベントの概要

- 3月8日のユーザー・ミーティングでは、SGA 評議会を発足させ、日本における里山・里海のサブ・グローバル評価を正式に開始する。
- 参加者は、地方自治体、企業、地域や国の政策立案者、政治家、学術研究機関、NGO、国際機関など、主要な利用者および関係者である。
- ユーザー・ミーティングでは、参加者は SGA に盛り込むべき利用者のニーズを検討し、SGA の作業計画とスケジュールについて話し合う。
- 英日通訳あり。

本イベントの取材または参加をご希望される方は、下記担当者までご連絡ください。

国連大学高等研究所 (UNU-IAS) 担当：臼井 (ウスイ)
(電話：045-221-2305 メール：usui@ias.unu.edu)

国際連合大学は、人間の安全保障や開発といったグローバルな課題に関する知識の普及と人材の育成を目的として 1975 年に設立された、本部 (東京) を拠点に世界各地に研究のネットワークを持つ国連総会傘下の独立機関です。

MEDIA ALERT